

第7回（仮称）新宿区産業振興基本条例に関する懇談会 議事要旨

【日時】 平成22年6月23日（水） 午後3時～5時

【場所】 BIZ新宿（区立産業会館）3階 研修室A

【出席者】 委員：植田、坂本、関、加藤、久保、志村、富田、藤田、上田、小池、渡邊、福田、酒井各委員
事務局：小沢産業振興課長、折戸都市計画課長、荒井産業振興係長、白田主任主事、松波主任主事、
後藤産業創造プランナー

【傍聴者】 2名

【内容】

1 開会

2 議事

（1）第6回懇談会の確認

- ・第6回懇談会の議事要旨・主な発言内容について、事務局より説明を行った。
- ・議事要旨および第5回懇談会の配付資料をホームページに公開することの了解を得た。

（2）小部会の開催内容について

- ・6月9日に行った小部会について、事務局より報告を行った。

（3）検討内容

提言書の構成について

- ・「新宿の産業」には、商店街と地場産業だけでなく、他の産業についても書く必要があると思う。

条例素案の構成について

〔中小企業者〕

- ・事業所のほとんどが中小企業なので、産業振興イコール中小企業振興といていいと思う。
- ・中小企業だけに焦点を当てる必要はないが、避けるものでもない。
- ・中小企業にもう少し寄ったものでもいいと思う。
- ・中小企業を応援していることが出ればよい。

〔条例全体〕

- ・区が何か新しいことを取り組む際に、この条例を根拠に取り組めるような形にしたい。
- ・区民に共感、協力を得られるものでないと意味がない。もっと今の新宿の課題をあからさまに出したほうが、区民の協力や支援を得られると思う。
- ・事業者にはただ守られるだけでなく、責務を果たさなくてはいけないということを理解してもらおう。責務を果たそうと努力している事業者には支援するとはっきりうたう。
- ・条文を読んで「新宿区は自分たちを応援してくれている」というイメージできるものがよい。

〔前文・内容〕

- ・なぜ産業振興が必要なのか、条例制定の必要性を書く部分である。
- ・「現在の新宿から未来への可能性を形にする条例」ということをシンプルに書いたほうがよい。
- ・「新宿」という地域性と「今制定する」という時代性を反映したものにする。
- ・一般の人(区民)に産業の大切さや、産業が自分たちの生活にどのような影響を及ぼすのか、わかってもらえるものにする。

〔前文・書き方〕

- ・読む人を食いつかせる、引き込む書き方が必要である

〔前文・キーワード〕

- ・「新宿力」 - 新宿らしさを出すために使ってみてはどうか
- ・創造性 - 過去を断ち切り未来へ向かうということを表現したい
- ・活力、活性化
- ・将来性、可能性、希望
- ・パワフルシティ新宿、タフネス産業
- ・革新、改革
- ・継続性

〔定義〕

- ・非営利活動団体は、NPOのほかに町会・自治会を含んだほうがよい。
- ・区民の定義も必要で、住民のほか、来街者を含むのかも検討したほうがよい。

〔基本理念〕

- ・「社会貢献している、価値のある産業または企業を区は応援する、そういう企業になって欲しい。」と書くことよと思う。

〔施策〕

- ・「販売、マーケティング」「経営者の育成」の視点を追加してはどうか。

〔主体・区の責務〕

- ・やらないことは無いように書かれていて評価できる。
- ・「都市政策」「国や都に対して行動を起こしていくこと」をプラスしてはどうか。

〔主体・区民の役割〕

- ・この条例の実効性を挙げていくのに重要なのは区民ではないかと思う。
- ・区民は何をしたらよいかわからない。
- ・「役割」ではなく、「協力、支援」という意味合いが強いのではないか。
- ・「健全な消費活動をする」としか書かれていないので、役割はそれだけではないと思う。

3 第8回懇談会の日程について

日 時：7月28日（水）午後3時から

場 所：BIZ 新宿（区立産業会館）3階 研修室A

〔参考〕

小部会（起草部会） 6月30日（水）午後3時30分から

BIZ 新宿（区立産業会館）LB階 商談室

4 閉会

【配付資料】

資料1 第6回 議事要旨

資料2 第6回 主な発言内容

資料3 小部会議事要旨

資料4 「提言」についての検討資料

資料5 「条例素案」についての検討資料

資料6 条例素案